

2020 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 佳作

理想の「地球（ほし）」

(原文)

宮本 理子 (13 歳)

東京都

東京学芸大学附属世田谷中学校

先日、50 カ国目の批准書が国連事務総長に寄託されました。90 日後、2030 年 7 月 7 日に「核兵器禁止条約」が発効します。この条約が採択されてから実に 13 年が経ちます。あなたが生まれてから生きてきた分の年数が経ったということです。

85 年前の第二次世界大戦で、アメリカが広島、長崎に爆撃を投下し、日本は世界で唯一の被爆国となりました。被爆者の方々が核兵器廃絶を必死に訴える一方、安全保障をアメリカの「核の傘」に頼るため禁止条約に参加しない日本。その矛盾に疑問と切なさを抱えたことを覚えています。

「核なき世界」を掲げたオバマ氏が大統領になって核兵器廃絶を願う人達は大きな希望を持ったことでしょう。私もその一人ですよ。ですから、当時の駐米大使らが米側に核の傘維持の重要性を説き、一方的に削減しないよう求める訴えをしたと知り、ショックを受けましたね。オバマ氏のブラハ演説、現職米国大統領としての初めての被爆地広島市の広島平和記念公園訪問。核兵器を使用したことがある唯一の核保有国である米国が先頭に立ち、核兵器の無い世界の平和と安全を追求する決意を明言していてもなお、禁止条約反対の立場を貫く日本。つまり立ちはだかるのは変わらない、変えられない普遍的世界のパワーバランス。ならば、何がこのパワーバランスを変えられるのだろう。そんな疑問を強く抱いている頃ですね。一方で被爆者の治療に当たる医師の話を書く機会があり、放射能の恐ろしさを改めて知り、医学の道を志すようになるのも 2020 年頃の私です。2020 年はショッキングな年ですね。コロナウイルスのパンデミックで世界が変わったでしょう。ロックダウン。外出制限、経済活動の停滞、生活様式の激変、倒産、失業、大不況。ワクチンも開発されず死亡者も増えていく。目に見えない敵コロナウイルス。その動きに予測はつかず、交渉も不可能。地球外生物のような敵を相手に終わりの見えない戦いを世界中の国々が強いられています。安心して日常を送れるようになるのは 2025 年頃でしょうか。

新型コロナウイルス拡大との戦いに費やした 5 年、収束から今日までの 5 年、この 10 年間に一体何があり、核兵器禁止条約に至ったと思いますか？

これまでの日本政府の対応は、日本の平和のためには米国の核兵器が必要。核兵器を全面廃止する条約には反対、というものでした。また、核兵器を保有する大国らは、核兵器禁止条約に署名しないよう圧力をかけてきました。日本政府の矛盾した態度や大国らが働く理不尽さを払拭できるのは、被

爆者が世界に訴えること、そして私たちがそれを支え、少しずつでも前向きに進むことだと私自身思いつつ、一方ではこれらの証言や署名がどんなに導くとも、いえ、尊ければ尊いほど「『核兵器禁止』反対」勢力には届きっこないとも思いはじめているはずです。相手はもっと違う理屈で動いているのではないか。自然とか宇宙とかそういった何か大きな力が働いて世界中の価値観が動かない限り、核兵器廃絶に全世界がひとつになって向かうということはないのではないかとも思うようになっていきますね。

ウイルス対策で人々は自分や家族の為に、家にいるようになりました。国は国民の命を守るため外国との往来を制限しました。かつて全世界が同じ理由で、同じ目的のために、同じ行動をとったことがあったでしょうか。これは今の私個人の印象ですが「コロナというトンネルを抜けるとそこは理想の地球（ほし）だった。折しも天気は快晴。傘の必要は無い」というところでしょう。

最後に、「トンネル」期間中はしっかり学習してください。